

オンバザラタルマキルク』

取り上げられてゐた着物やマントを着つゝ、僕は水をのませろと言つて、コップに二杯ばかり飲んだ。

頭が寒くて帽子を被る。直ぐ脱がないと頭が燃える。

温度の調節がとれないのだ。

巡査達は畏こまつて大勢見てゐた。

可笑しかつたのは辻潤がニコニコして、

『俺が解るか』と言つた事だつた。

僕の姉は涙を腫らしてゐる。

コシマ・キヨも来てゐるのだ。

『妾が解りますか』と同じような事を言ふ。

それから僕は人力車に乗つて、一應野田の貸間へ引き上げる事になつた。

煙るような糟雨が降つてゐた。